

第8章 目標値の設定

都市計画運用指針では、立地適正化計画の必要性や妥当性を、あらかじめ市民等の関係者に客観的かつ定量的に提示する視点から、計画の策定にあたり、生活利便性、健康福祉、行政運営等の観点から、計画の遂行により実現しようとする目標値を設定することが望ましいとしています。また、立地適正化計画は、概ね5年ごとに施策の進捗状況や計画の妥当性等を評価しながら推進することが望ましく、評価に当たっては、当該目標値の達成状況等をあわせて評価、分析することも考えられるとしています。

伊勢市立地適正化計画では、「市民の暮らしと伝統を守り育む集約型都市」を都市づくりの理念に掲げ、それを目指すための方針を「若い世代にとって魅力的な都市」と「高齢者が安心して暮らせる便利な都市」としました。これらの達成度を計るため、以下の定量的な目標値を設定し、定期的に計画の評価を行い、必要に応じて計画内容の見直しを行いながら、効果的な都市づくりに取り組んでいきます。

8-1 誘導に関する目標値

(1) 都市機能に関する目標値

- 目標指標 誘導施設の立地割合
- 設定理由 都市機能の集約状況を計る指標として、都市機能誘導区域内における誘導施設の立地割合を目標値とします
- 目標値の考え方 基準値となる2017年（平成29年）時点では誘導施設の3割強が都市機能誘導区域に立地しています。現在都市機能誘導区域において、立地していない誘導施設が5施設あり、これらの施設を都市機能誘導区域の外から内に誘導できた場合の立地割合を定量的目標値とします。

目標指標	基準値	目標値
	2017年（平成29年）時点	2033年（平成45年）
誘導施設の立地割合	32.6%	34%

【算定根拠】

基準値：95施設（都市機能誘導区域内の誘導施設数）÷291施設（全誘導施設数）×100＝32.6%

目標値：99施設（94施設^{*}+5施設（都市機能誘導区域に現在立地していない誘導施設））

÷290施設^{*}（全誘導施設）×100＝34.1%

※図書館集約による減少を想定

第8章 目標値の設定

(2) 居住に関する目標値

- 目標指標 居住誘導区域の人口密度
- 設定理由 居住誘導区域の人口密度の維持を計ることができ、現存する都市機能の流出防止、拡充、適正配置が見込まれるため、居住誘導区域の人口密度を目標値とします。
- 目標値の考え方 基準値となる2015年（平成27年）時点の居住誘導区域の人口密度は37.8人/haとなっています。これが、現状のままで推移すると2033年（平成45年）年には30.1人/haに減少します。伊勢市では人口に関する目標として伊勢市人口ビジョンにおいて目指すべき将来の方向性を示し、人口の将来展望を掲げています。この将来展望に基づき算出した人口密度は31.9人/haとなり、2015年（平成27年）時点と比較し15.6%の減少となります。当計画では居住誘導区域内の人口減少を伊勢市人口ビジョンにおける将来展望よりもさらに抑え、10%に低減できた場合の人口密度を定量的目標値とします。

目標指標	基準値	目標値
	2015年（平成27年）時点	2033年（平成45年）
居住誘導区域の人口密度	37.8人/ha	34人/ha
【算定根拠】		
基準値：国勢調査100mメッシュ人口データ(2010(H22))の集計値×500mメッシュ(2015(H27)) ÷500mメッシュ(2010(H22))=37.8人/ha 目標値：基準値×90%=34.0人/ha		

【参考】各推計値と目標値

人口居住誘導区域の人口密度	2015年(平成27年)	2033年(平成45年)		
	基準値	現状のままの推計値	人口ビジョンの推計値	当計画の目標値
	37.8人/ha	30.1人/ha	31.9人/ha	34人/ha

8-2 都市づくりの方針に関する目標値

(1)「方針1 若い世代にとっても魅力的な都市」に関する目標値

- 目標指標 : 子育て支援センターの利用者数
- 設定理由 : 当計画では子育て支援施設を誘導施設に設定しており、子育てを担う若い世代にとって魅力的な都市であるかを計る指標として、子育て支援センターの年間延べ利用者数を目標値とします。
- 目標値の考え方 : 子育て支援センターを利用する就学前児童数は減少しており、将来においてもさらに減少することとなります。目標指標には、新しく整備が予定されている施設による利用者数の増加と計画による利用率の上昇を期待した利用者数を定量的目標値とします。

目標指標	基準値	目標値
	2016年(平成28年)時点	2033年(平成45年)
子育て支援センターの利用者数	42,300人	44,000人

【算定根拠】

基準値：実績値

目標値：2016年(H28)実績値×目標年次人口×(利用率+期待値)÷2016年(H28)人口=44,000人

【参考】就学前児童数の推移

就学前児童数 (0～4歳)	2005年(平成17年)	2015年(平成27年)	2033年(平成45年)
	5,755人	4,795人	3,108人(推計値)

(2)「方針2 高齢者が安心して暮らせる便利な都市」に関する目標値

- 目標指標 : 市民アンケートの満足度
- 設定理由 : 伊勢市が高齢者にとって暮らしやすい都市であるかについて計るため、市民アンケートによる満足度を目標値とします。
- 目標値の考え方 : 高齢者の満足度は近年上昇傾向にあり、目標年次には半数を目指します。

目標指標	基準値	目標値
	2017年(平成29年)時点	2033年(平成45年)
市民アンケートの満足度	40.7%	50%

【算定根拠】

基準値 : (市民を対象に毎年実施している市民アンケートの以下の設問において、居住誘導区域内の小学校区に住む60歳以上の方が「1. 暮らしやすい 2. どちらかといえば暮らしやすい」と回答した人数) ÷ (居住誘導区域の小学校区に住む60歳以上の設問回答人数) × 100

市民アンケート調査の設問

- 問 あなたにとって、今の伊勢市は暮らしやすいですか。(1つに○)
- 1. 暮らしやすい
 - 2. どちらかといえば暮らしやすい
 - 3. どちらともいえない
 - 4. どちらかといえば暮らしにくい
 - 5. 暮らしにくい

目標値 : 50%

8-3 コンパクトなまちづくりに向けて

本市では、人口減少・高齢化等に対応したコンパクトなまちづくりを行うため、誘導する施設や居住の区域、誘導施策、目標値などを設定し、緩やかに集約型都市を目指します。

集約型都市を実現していくためには、関連する様々な計画を推進するとともに、官民一体となった取組が必要です。

また、本計画を推進するにあたり、制度上、宿泊施設等が誘導施設に当たらないなど、豊かな歴史文化や景観を有する観光都市である本市の特性を活かしきれないところもあります。

今後も、本市の特性を活かしたコンパクトなまちづくりを推進するため、必要に応じて概ね5年ごとに計画を見直し、効果的なまちづくりに取組みます。